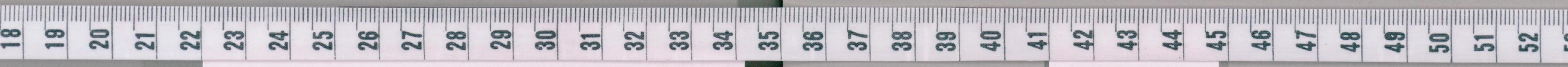
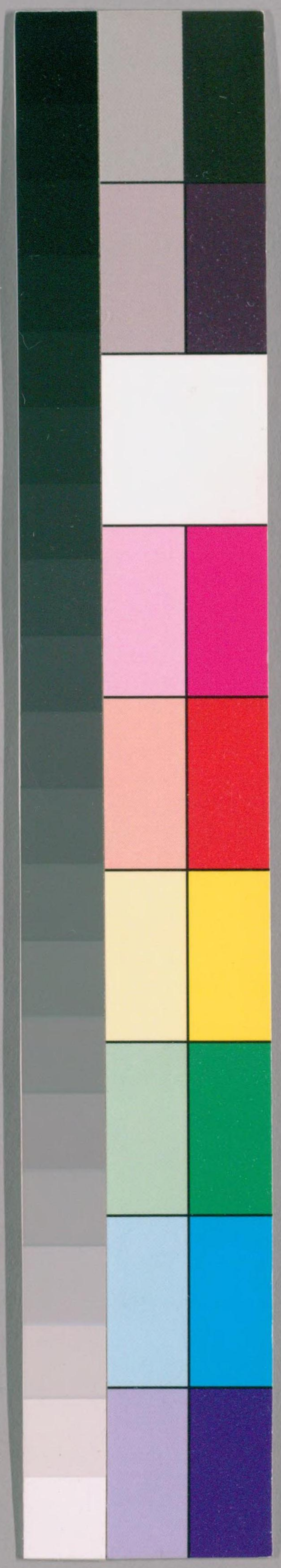


136
50
197

官刻
孝義錄
安藝
三十七



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

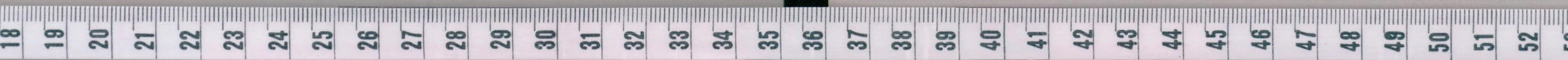
ガラス使用

官刻
孝義錄
安藝上

卅七

136
50
197

東 京 圖 書 館			
五 冊	一 二 八 號	五 九 八 架	三 七 函
			傳 記 類
			和 書 門



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

由朝

孝義録卷之三十七

明治九年文部省交付

安藝國上

孝行者

松平安藝守領分
沼田郡下安村

百姓

又云勝

享保元年
褒美

孝行者

同領
同所

又云勝

六右馬

同時
褒美

孝行者

同領
同所

甚右馬

日時
褒美

孝行者

同領
二縣郡白江田村

百姓

六右馬

享保元年
褒美

○孝行者

同領
廣島城下稻荷町

町人

半右

享保二年
褒美

孝行者

同領
奴可郡所尾村

百姓

市右

享保三年
褒美



孝行者

日頃 奴可郡所尾村

百姓

又三勝

歲不知

享保三年 褒賞

孝行者

日頃 世羅郡黒門村

百姓

長右馬

歲不知

享保三年 褒賞

孝行者

日頃 三上郡正糸村

百姓

忠三勝

歲不知

享保三年 褒賞

孝行者

日頃 三上郡正糸村

百姓

忠三勝

歲不知

享保三年 褒賞

孝行者

日頃 賀茂郡真台村

百姓

六三勝

五十四歲

享保四年 褒賞

孝行者

日頃 廣急城下六町目

淳邊町人

仁三席

八歲

享保六年 褒賞

孝行者

日頃 惠藤郡敷垣内村

百姓

次三勝

歲不知

享保六年 褒賞

○孝行者

日頃 沼田郡上安村

百姓

次三勝

歲不知

享保七年 褒賞

孝行者

日頃 沼田郡上安村

百姓

年七

歲不知

享保七年 褒賞

孝行者

日頃 沼田郡上安村

淳邊百姓

仁三

歲不知

享保七年 褒賞

孝行者

日頃 高宮郡可助町尾村

百姓温徳屋

清三勝

歲不知

享保八年 褒賞

孝行者

日頃 日所

清三勝

次席八

歲不知

日時 褒賞

○孝行者

日頃 豊田郡戸野村

百姓若三勝

仁三席

十六歲

享保八年 褒賞

○孝行者

日頃 日所

百姓助右馬

權助

十八歲

日時 褒賞

孝行者

日頃 廣急城下材木町

町人借屋位仁助娘

仁三

十九歲

享保九年 褒賞

孝行者

日頃 廣急城下浪山町

町人借屋位保右馬娘

仁三

二十六歲

享保九年 褒賞

孝行者

曰領 廣島城下石見屋町

町人發結

儀玄坊

五十九歳

享保九年

孝行者

曰領 廣島城下西地方町

町人借巻位

多玄坊

五十二歳

享保九年

孝行者

曰領 豊田郡尾坂村

百姓

三藏

四十七歳

享保九年

孝行者

曰領 賀茂郡下市村

百姓 盛屋五市娘

子法

四十四歳

享保十四年

忠義者

曰領 佐伯郡波村

百姓 新屋七市下男

玄坊

六十一歳

享保十五年

孝行者

曰領 山縣郡戸内村

百姓

八十市

四十三歳

享保十八年

奇特者

曰領 吉富郡福田村

百姓

若三市

三十五歳

享保二十年

孝行者

曰領 安藝郡仁保島大内浦

百姓 志保屋

下

四十八歳

元文五年

孝行者

曰領 安藝郡仁保島瀬崎浦

産民

胡敷

三十七歳

元文五年

孝行者

曰領 安藝郡府中村

百姓

源三市

三十八歳

寛保三年

奇特者

曰領 廣島城下橋本町

町人横田屋

田原右馬

四十三歳

延享二年

孝行者

曰領 佐伯郡若津後田村

百姓 助左馬將

権四市

十九歳

延享二年

貞節者

曰領 吉富郡下中野村

百姓 井屋助左馬娘

心光

二十七歳

延享二年

孝行者

曰領 吉富郡可成町屋村

百姓 温徳屋

傳助

三十二歳

延享二年

忠義者

曰領 佐伯郡甘市村

百姓 城屋下男

源七

七十六歳

延享四年

孝行者

曰領 豊田郡取木村

百姓

助十市

四十五歳

寛延二年

○孝行者 日頃 言田郡吉田十日市村

○孝行者 日頃 賀茂郡三津村

孝行者 日頃 安藝郡牛田村

奇特者 日頃 安藝郡府中村

孝行者 日頃 日所

○孝行者 日頃 安藝郡牛田村

孝行者 日頃 豊田郡小倉村

○孝行者 日頃 日所

孝行者 日頃 豊田郡奴行村

○孝行者 日頃 言田郡桂村

○忠孝者 日頃 言田郡後田村

○孝行者 日頃 日所

孝行者 日頃 賀茂郡下見村

○孝行者 日頃 豊田郡小倉村

孝行者 日頃 日所

家内睦者 日頃 日所

百姓林之丞久口市妻

穉所

百姓

百姓

六三歳妻

百姓源之丞後妻

百姓

吉助妻

百姓三右馬娘

百姓貞左馬次男

浮過百姓

七郎妹

百姓

百姓

婦 三十四歳 宝曆二年 褒美

忠八 六十三歳 宝曆十年 褒美

二十郎 四十歳 宝曆五年 褒美

六三歳 安永元年 褒美

四十三歳 安永九年 褒美

四十四歳 天明元年 褒美

四十八歳 天明元年 褒美

三十七歳 日時 褒美

四十五歳 天明四年 褒美

十一歳 天明五年 褒美

七郎 二十二歳 天明五年 褒美

十六歳 日時 褒美

武助 五十二歳 天明六年 褒美

林右馬 甲六歳 天明七年 褒美

如新 甲八歳 日時 褒美

左次郎 二十五歳 日時 褒美

家内睦者

日所領

日所領

和吉

日時

家内睦者

日所領

日所領

七人

日時

○孝行者

日所領 廣島城下十日市町

町人借倉位

十四歳

天明八年

忠義者

日所領 廣島城下紙屋町

町人漆倉新七十男

六之助

寛政元年

忠義者

日所領 廣島城下立町

町人法須倉三郎下男

茂助

寛政元年

忠義者

日所領

日所領

勤八

日時

孝行者

日所領 高田郡西浦村

百姓六茶牌

勤四郎

寛政元年

孝行者

日所領

日所領

九左衛門

日時

孝行者

日所領

百姓

長之助

日時

孝行者

日所領 高田郡大塚村

百姓

勤十郎

寛政元年

孝行者

日所領

百姓

勤十郎

日時

孝行者

日所領 聖茂村乃美尾村

百姓

借四郎

寛政元年

忠義者

日所領 依伯郡十日市村

百姓若見倉新左衛門下男

利七

寛政元年

孝行者

日所領 依伯郡小方波田村

浮過百姓

六之助

寛政元年

孝行者

日所領 豊田郡忠海村

醫者

見林

寛政二年

孝行者

日所領 廣島城下東魚屋町

町人官所倉位左馬助

多右衛門

寛政二年

孝行者

日所

日娘 五

小也

日時

孝行者

日所 廣徳城下竹屋町

町人借屋住貞七牌

左助

寛政二年

孝行者

日所 廣徳城下尾道町

町人借屋住平吉牌

忠次

寛政二年

孝行者

日所

日

松次郎

日時

孝行者

日所 廣徳城下廣徳組

町人借屋住吉三牌

如光

寛政二年

孝行者

日所 廣徳城下竹屋町

町人借屋住良助牌

全

寛政二年

孝行者

日所 廣徳城下稻荷町

町人借屋住信三牌

兵衛

寛政二年

孝行者

日所 廣徳城下廣徳組

町人借屋住

惣七

寛政二年

孝行者

日所 廣徳城下胡町

町人借屋住新八牌

新彦

寛政二年

孝行者

日所 豊田郡忠海村

浮遊百姓

長彦

寛政二年

奇特者

日所 沼田郡下妻村青糸谷

組次

源右馬

寛政二年

風俗宜者

日所

庄屋

惣百姓

日時

奇特者

日所 安藝郡坂村

庄屋

茂二郎

寛政二年

風俗宜者

日所

浮遊町人

惣百姓

日時

孝行者

日所 廣徳城下六町目

浮遊町人

新助

寛政三年

孝行者

日所 廣徳城下天祐町

浮遊町人

忠人

寛政三年

○孝行者

日領 安藤郡蒲刈邑

百姓新七郎

新之助 十七歳

寛政三年 褒賞

○孝行者

日領 佐伯郡廿日市村

百姓宮崎平六下男

平六下男 四十一歳

寛政三年 褒賞

○忠義者

日領 佐伯郡廿日市村

百姓

長九郎 三十三歳

寛政三年 褒賞

○孝行者

日領 高宮郡上系村

百姓

長十郎 甲八歳

寛政三年 褒賞

○孝行者

日領 高宮郡下源村

浮過百姓

佐助 二十三歳

寛政三年 褒賞

○孝行者

日領 安藤郡多のけち村

百姓

半右衛門 甲八歳

寛政三年 褒賞

○孝行者

日領 日所

半右衛門妻

半右衛門 甲八歳

日時 褒賞

○孝行者

日領 佐伯郡巖倉小浦

取家若三郎娘

志上 五十五歳

寛政三年 褒賞

○忠義者

日領 佐伯郡巖倉大町

町人廣島屋孫兵衛下男

才助 六十七歳

寛政三年 褒賞

○孝行者

日領 豊田郡新羅村

百姓

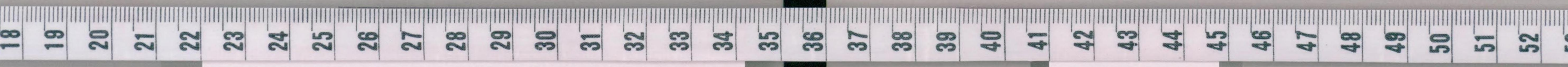
源藏 三十五歳

寛政二年 褒賞

孝行者孝翁

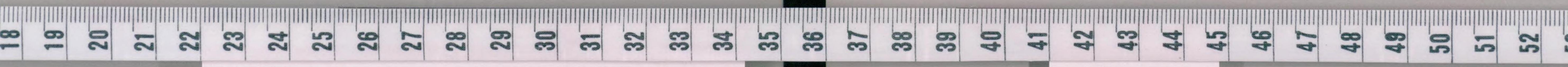
孝翁は廣徳の津中稻荷町のもろあり父作左衛門の二十日暮
 母八十八歳あり我身とももにこそ入のくろくありし
 か目くつとに起て神棚杉佛堂に煙火とそふそふのくち父
 母の目さむるとよまらえくは水乃湯とさうしてよあらい
 けさうりせ烟葉乃火たり茶とさく先慈よめさうり煎あ
 それうり出く高ひおと買れ物飯乃比ふ人里父母の
 食いこととひとつらもくひて後高ひに出人さくは慈
 におつひさうり作左衛門の頼ひさく別をにうつりすゆと
 りた孝翁は志くも親の側とさふさくとして外の人

孝義録 卷三十七



してしつひとせしむるにせしむるに別れとらんといひかみくき
 年の二月より別をいよめせしむる已の居るうらなも満り
 又高のよ出入の及もつら福と胡夕乃つら必ゆきして
 起居とらひるに酒を好うそのすむらうにう紀
 酒もあけきて廣福乃市にうめい青あつひい菓子乃
 類とせぬめて送つりつてしつひにゆら時止りて若せらぶ
 父母も中く免つらしく樂とせむと家業八日この小高
 ひより物よあひあめくほらめとあしといふの
 惟とあつひい西のち風つら雪ふらうさにも胡夕乃
 かことうらにうら事いあめうの一日も忘る事

あく月よ白米一斗を拜と報せむと定めくをらむとせむ
 にも費用のきこをいよめせらう事始く去年乃八月よ
 中又もあつひいゆりすめんといふあつひとあの日と
 定め父母乃うつれち前日より高ひにも出やうは家の内
 と掃ひいよめ事の表あつらあふ食物よもんと用む
 そ乃日にあれハ細くゆめ父のゆきにゆき用物の物
 乃後名とたつ子人をやとひて調度をうつてせらうハ
 父母も悦ひんを安んせむとむらもの事あれハ寺
 院よと志しうまうてとを賽積乃料をせらう初
 ね業りあつひの時の高をわらうつとそひゆとあれハ



父母乃是とあく暑寒乃母よあつてその扱ひ
 にあつては年ハまこと若く是と高ひの外に他
 く事なく父母乃為ある時ハ高ひも出はして
 醫業と求め食事ととも先んをとて着落せ
 里京保二年六月領まうり獲長とて家あふい
 田代とあつふ

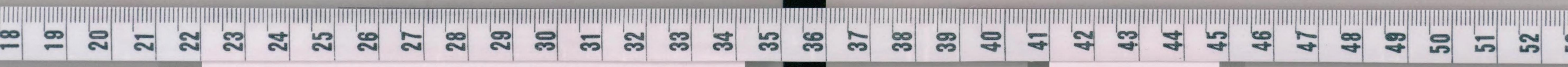
孝行者次席玄清

次席玄清ハ田郡上安村の百姓あり母ハ世とわう
 父ともいどき世その才農事とつとめく先父
 を喜ひ物々乃食おいとよとらは甚ふよとい

ハは家にあまハ側子そひあく語り慰先父子乃
 中よりと父乃つていへるハたる事と志るへ
 たらとらと心とつてもくも不長なる物ありと
 えと次席玄清母其言と味ひく他を羨まは
 をつてとらと事にくも貪る事ありんや
 うに心ひとととの比あつてありりひあ
 飢渴よとらもの多く次席玄清もあつ其うら
 しては領まより救果とらへとも乃教よら
 してはそくに村役人乃中にて由とて母夜乃教に
 くらとらと事有とこれと起つる父とらた

孝義録卷三十七

九

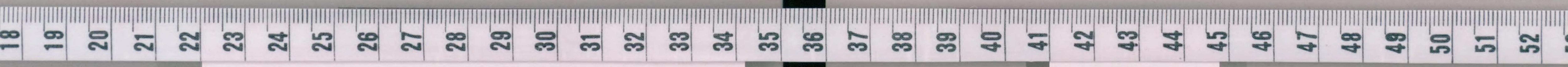


かゝ飯米をもたくし之並ぬ無度の所救ひよもききんと
 いへば後人も驚きとていふやうたくり之並しとてあま親
 を書きたり乃料よいつまもくも一奉乃飯米たたくと
 つれいたえ飢饉の年ありても養乃事走しつゝ以
 け度救つせあふ事とて先とて救多うんじ一人あり
 とも此心と芳うせうとてさひとら重しとていよ
 に後人もその志と感しゆらる事とてさももの親の
 養ひとてその身をまつまやめして親乃養ひと
 せうらる事稱美とて人々と事ありとて領主とい
 こえあけられと享保七年三月某とあえく賞分り

孝行者仁之郎

孝行者権助

豊田郡戸野村乃百姓助右衛門といやも乃初秋の比農業
 よおるにいつくうりう手ねひらる猪来るに助右衛門と
 りけたふせうその娘とてあけける杖をもてうら
 妻れと又娘とをわけ倒しけらにその妻水と汲んと
 てけむに来るにこの有さぬとて猪と追の妻んとた
 めらうらら妻とをも又け倒しとんと命危うか
 りしと助右衛門の権助といへるも乃病よゆり若く
 けりしとてさう謙と拙出しとて乃猪怒りたけり

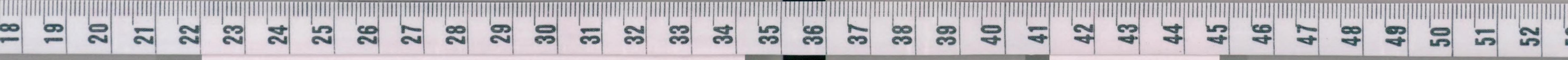


てひらきしるに東るに権助身よりしそめ鎌をひきき拂ひ
さゆの猪乃腹乃下に凍く切込しり猪ハ程ゆけり
ゆていはいはらよ見きひぬさく二人をたすけ起し
られえさまいらうらの疾めく命ハ恙あるをけりこれ
も同村乃うちにして離れたる郷の鳴瀬といふ方本
里その右乃百姓吉長場といふの子乃仁と席といふに
農事乃つと免とあてとりしけうの漆手負
たる猪ゆけ来り吉長場とゆけくうしり乃田とい
孫為せしに仁と席ゆけゆけあてとりしも力強き
ものありしうのゆけ猪の暴息と切らひひきと

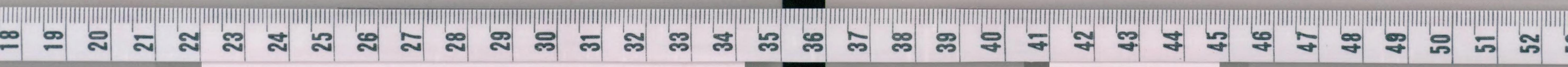
考んともうしり乃田に落しゆとて吉長場も純
上りてともいふと免とりしゆめに権助の漆手
負しせしゆいといけゆと仁と席たゆと志と
考く事全く二人乃子乃父母と大切なる
ふらゆゆもゆめたる事ともあてとりし
ともせしゆいし享保八年十二月領主より權助
とて二人の多目とことくとあてとあん

忠義者志云

佐伯那波村乃百姓七三郎が下初長長場といふの
られゆり四十餘年といふに七三郎の祖父七郎右衛門



衣を勤く比らめしはひしう年久しく貞
 實につと免くは二十六年前より七席右馬より妻
 をもたせ貸をにならしめしこころは田とつく
 らせ高ひともせし給うらふ十九年前より改波村
 大岡町より時七席右馬の家もその是よりあひ家
 養とも免ひたれしは云々清夫婦とてにわ家子
 のりしうはあつひこころえ云々清り年比貯へ
 とけり後と出してわ家をたすけ七席右馬のふの
 事なるといふを清えしてあつたかく日暮とま
 くとせしに八年前より事なるといふありて後
 り今乃七席右馬の事ありありの事ありと
 家も立おしつと云々清夫婦の力をそとてとて
 立しに事なるといふ後家も八年前より病とせし
 しの事なるといふありしはけあつ七席右馬に
 にもしてあつせんともあつ福乃夜食もをを
 をわうく八歳よりあつた云々清も今八巻初て
 かそれハ養子ともせしつと入くのもをひを身
 ともしつとていふ事なるといふわらたせん
 の事なるといふ七席右馬のうらに初を
 いとまるといふ事なるといふ七席右馬をう

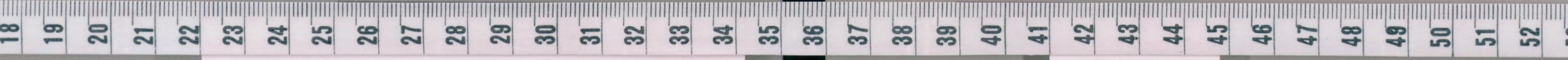


時もお家のなむはけ時よありとあひらちて六七十日乃
あひと養ふとやうに着病していつうも志ん事
まゝとてそ享保十三年十二月領まゝより獲り
して奉そこころとせ給地乃の上田まゝ
里も養ふとへとあん

孝行者八十席

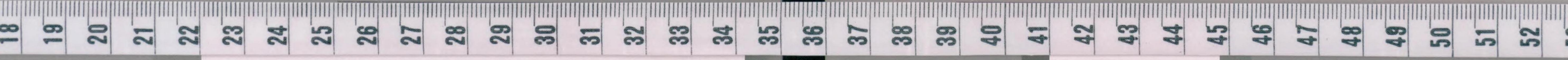
八十席ハ山縣郡戸内村の百姓太麻布市の子あり初
より孝めして父母のいぬせり産を産るにありそめ
にも通つて事あり必す中遠にてもあはれそめ
ん事を忍れてなうやじりやとあはれそめその例

とてはそのむとこころあひていそえ父母のいそ
きていそえ業にさうりたり事ねくやうとあ
小及く物乃食を調ふるにも必そのこのまあせ
てさう先ぬめり品にえくけと遠にいつうあ
もと先より八十席二十歳乃時よあはれとやう
こころいそえとさうの物乃の食事にあうして父
母のよあひつうと志んくいつういそえつ子
に使くうひて飽ん事を乃とひ孫くう七年
茶子父病とぬて七十六歳まで終り母の志ん
海にたらるもあひつうとあはれと事あはれ



親族知音乃もとに時をたひゆさしりてと慰光たり
 母の年七十六ありり一昨より目もやとて療養
 乃志ありもあつくつるよ目志あるとあむしつは
 いふく深くうきしつらむと家よあまは側とと
 あれとあ乃あ名日のうらととつけおより人の
 来る事あれと母の用ありとらふも何某乃来
 せらられこのの海するたつとつとに語り農業
 乃事あこの家事の細やあるあつく事とつと
 に告くうらむとつるあつく出るよ中海にま
 え邦に出くも去居せは志うふ母乃志あつくに志

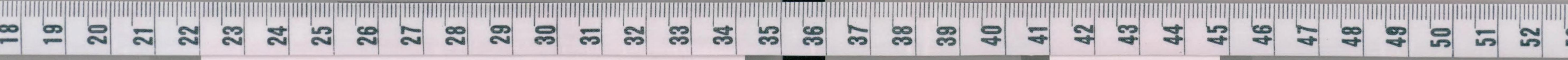
たうひて痛もいやくつるもつは多く乃醫者を
 呼び久も益を枕やとよあむして湯薬乃事と
 川かたより病乃ひまを慰んとくくこのお終
 とせしとと進講乃ものえあめく領主に告しつは
 享保十八年癸亥として年貢乃うちと石と子孫
 海くゆるつとつとこの年の六月母つあようせ
 甲うあはあつとに堪を傳統をむく一村のも
 乃とあつめく進福乃いとあむと怒にとるはひ
 かあくる年乃上月村の役人乃りつとにむし指言の
 うらと子孫よたうあつくあむとあむとあむと



に孝思ありしに六月八日母乃一めりり乃志を
 とひ九月八日父乃七先らるる乃志よあつる事此の
 二乃法舎をばゆりされし米を以てくふ乃母に遂
 け初ひしむとよも子なりて親を孝みふつこの
 方れとありしゆりされし米を以てまのせも
 とのこころに納め申す未乃代もくゆりされし
 うる事あは天のとめもくゆりたること志ある事
 けさうゆはと乃奇特ある志を以て賞して猶
 の兼ハ子孫もくゆりたる事

孝行者胡都

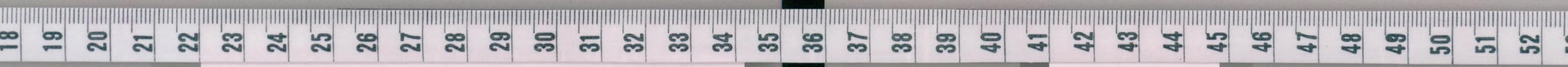
安藝郡仁保郷乃うら瀬崎浦に胡都といへる彦政あり
 兄弟之弟もとに同居して母子つら分る母ハ七十二歳に
 て老衰へしとて胡都に泣して起居せしむと
 つら水乃湯をあへ食物の嫂乃調とらと母ら
 く給仕しとす先くひし梳ハ子つら洗ひし
 よらあつ子に母の子是かと洗ひいめり時ハ寝
 床をしと其ハ涼さうにゆうけ又六歳とく
 かうして使く休ませぬつ子ハ地神経をうら
 せとわらうとらうらに母らとくもい川比
 にはゆりさうとらうらに母らとくもい川比



此處の如く一事も外にやたら事なく一見の漢律
 にて家よする事かそれと嫂とおとむりして孝養
 とする事なく母乃性酒をよするくのとそれ
 と日ごとに二夜つゝもつゝもと免てよする免たり
 いてけりて母眼志むに病のうら乃醫療に父
 母んを若くしり成長に志するひてその事
 とよする事なくあらぬ父母乃息あまのあつて報
 のくつありしとよする事なく日暮側よあまの給
 仕せしめり乃あまのあつて孝養ににゆりせり
 とのとあつてその元文不奉二月領主より廢
 美として米をよする

奇特者曰所右邊

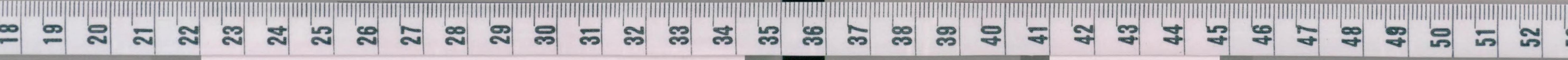
廣治乃城下橋中町に横田屋曰所右邊とすものあ
 り父も母も曰所右邊とすりその身若左邊にけ町
 乃りらある候縁をといへるも乃り聲養ふとあり
 て今の曰所右邊のハ叔父あまのくか家産やうく
 子領する元銀七八十貫目とあり乃おひめをれ
 ひをる乃家あまのよと養その外にも掛抱とて
 あつたもつる乃完地田畑乃教あまのこつて
 賃にして借銀のゆひめにあつて盡しと曰所右邊



少く歎と叔父乃養家の初終んよハ養家の先
 祖乃靈にむらひく横田屋一族のゆの面をあら
 へしたとハ横田屋のと兼へゆくとも母家乃先祖
 乃靈もよそあつらふ子ゆくといひあもして縁
 名の傾けら家なすこすけおこさんとこひあゆくの
 物賣志らあつたひ免あゆさ債ひあゆさる後と
 本手として四郎右衛門の拭物ゆつたる家つとや吉左衛門
 か子乃助之郎に懐り助之郎か中とこ家乃養子
 と約しこが利害を顧み家も苦財もゆりり
 くとく再ハ縁をた家をあせり事諸人よ
 とるまきたる奇特乃ものありとて延享二年十月
 願まより復るの程をこくとあてよ

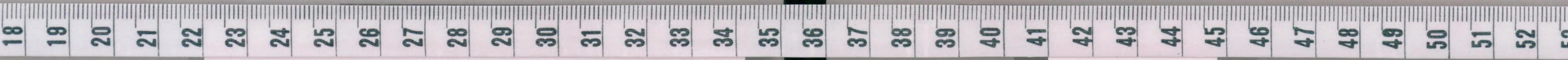
孝行者助十郎

助十郎ハ豊田郡船木村乃百姓あり母ハ二十五年おに
 り廿九年去病ハ十八歳にくとむさハ海をたすん
 歩行もまらりここと助十郎ゆく養ひより生れ
 つこゆ先やあつらものあここと十四年おに長百
 姓乃夜らして一村乃事ともよりあつらひこ家
 乃月よハ年去病助十郎夫婦と男女の十初乃と
 あくららに走しこことあここと父のあれ



る持高八石乃田と耕しとて乃事父よりい
 記事みつて農事に力を盡し借種おとほり
 事なり父の畑夕乃食を子つゆら調してを免
 由くに田畑にありとらむと日乃うらに
 家に入らぐ安否をその夜の事にはか
 出ら事あはそその子と父よりけ妻にあり
 いとていへぬに内乃とてその心
 も菓子給もして酒を求め帰里稚子にあり
 りことと進免とて父と書ふためにあり
 たり費をいとり父乃食をとりとれとあり

そい乃事あるも田畑乃勤にむとて
 父の事とてとて夫婦ともにかとて
 時のかせいぬららる事あくと田後も
 一人にたひもていふは父もあは
 勞とていふ人と物音せぬやうに紀外
 とそいとせ願主乃納不乃事をし
 然りりの田畑忠海とていふ乃
 あつよ日にいとていふとて
 時あはしてを止む當らる事
 父とていふとていふとて

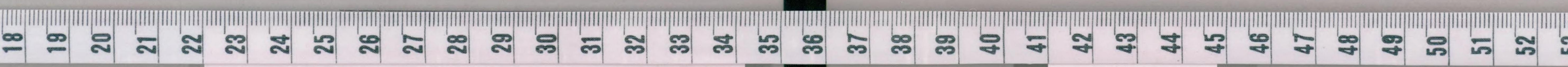


紀てその事と勤しめ明る年に役人よじりて
外よりよき事いふもさくあく農業の事とされ
りてさくその事をゆるぎん事をさく
りてその事とハ孝中直乃ためあく忠直とそそ
こえしとされん寛延二年九月領まゝるを獲
りてさくそそそとさくそそそと

孝行者忠八

忠八加茂郡之津村乃漁師あり母このと
百歳にありしハ男徳ありて孝とさうみぬ
も乃おとすこととさくそそそと

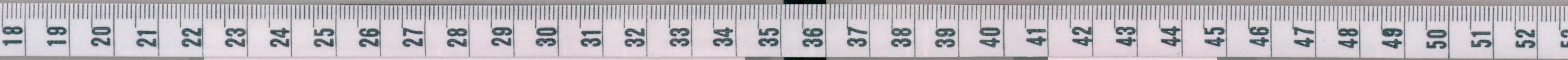
世男女二人の子ありて母とさくそそそと
りてその事とさくそそそと
母村のうらにさくそそそと
をさくそそそと
めくその教よりさくそそそと
をて徳ありとさくそそそと
黄髪とさくそその側をさくそそそと
りてさくそそそと
もさくそそそと
の事とさくそそそと



事とゆゑと出る事ありぬ二人の子に母の事録
 んびよりの少くめ事録にともそのむにあそ
 じとそと戒めたり妻とせり比親族の事
 里と後の妻じくふの事人むむり
 まは母につら事人の事ありしとけ
 ひつ老母も人よむひと事子のけあ
 やらと録事と送る事と事とあせ
 て悦ひしと事二人の子も父にあひて
 のと教ひしと事難も百歳に在る事
 忠八の孝事乃詮ありしと事曆十年正月
 領主
 ありて復た事ありしと事
 とらあん

孝行者とふ

ともかゝ沼田郡中調子村よすめ八三歳
 十三年前に安藝郡牛田村の百姓源三郎に嫁
 しめ舅姑よすめつと人妻乃内ものよ睦しと農
 事にあつらぬ舅源四郎七十にあありしと事
 ありしと福とゆゑと農業もあつと事
 ありしと事ありしと事ありしと事
 ともありしと事ありしと事ありしと事



姑も姑もらね奉れし病者にも奉らしむを
 それへねばけりねばにきかしくもねりつる
 食を個へ暖の何れ夜のとも人あつてはを
 いらりあつる奉れ當にらせよりの祖姑と舅姑
 の後をいへりねばもわらへりしなり
 も力をあつていへりしなりをいへりしなり
 していへりしなりをいへりしなり
 けりしなりをいへりしなり
 ぶりと感へりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり

初くと父母にらあれし奉れにせせにあり
 このとれ用もいへりしなり祖姑舅姑のなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり
 いらりしなりをいへりしなり

孝義録

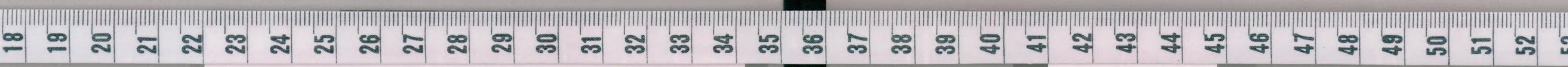
三十一

と試み服しその味を志れる者よりその神妙あり
 事もありと感しあり食事も志し福
 して名ぬ母のいふ語よりよきと志し病ひし
 時のいすけし人も人のまにける事あり
 母れも是と極しより病ひ極しより疲れて眠る
 事ありともそのをのつら動かせしに
 せしらるるものと傍の人ありし
 ありしに驚きし人自らも病ひ極し
 たりしに驚きし人自らも病ひ極し
 父母よりいふに病ひる事あり
 父母よりいふに病ひる事あり

蚊のいりしと志しちやちや母を
 蚊帳の中に入りて外に出る事あり
 乳を痛め腫れおこすなり
 しに吸出さるるなりと志しちやちや
 もありぬんをれといふにせんと
 ころころと吸ひけり
 うちに伊勢神樂来る事ありて隣の家
 ともやけけるに一村の男女こ
 時も傍を母の側を離しと志し
 母の側を離しと志し

孝義録

三十一



来る事ありて海村を通ずる時めつらゝし
 見物ふれ人々出〜と於傍後ハ由り良白盒
 と、童抱ひよ出よ〜とにやう〜に出ける時もあり
 しかあへ〜物見のつとあ時〜むきも出る
 ね〜女の痛に〜ら〜時〜知にも出〜抱ひ
 残〜〜と〜痛よ〜せり〜の家にの〜あり
 一〜事全く母れ痛と〜ぬるに〜ある日
 の夕つ〜燈草と割ひ〜の〜と〜血出
 ぶ〜〜悲〜〜と〜の母れ痛〜や〜ひ
 一〜血出〜と〜今宵母れ着痛

せん事〜も〜と〜あ〜の痛
 一〜も〜母の味〜あ
 一〜と傷〜事と母の〜と〜ある
 一〜痛の〜にも〜と〜と〜
 一〜の〜に抱〜け〜と〜
 養ひ〜放よやあ〜一〜養も〜あり〜
 小見〜ら〜母〜や〜け〜あり〜
 辛半〜との痛の中〜に暑寒の時を〜事
 ろ〜着痛に〜事ね〜兄乃祐彦とい〜も
 十八歳〜も〜ら〜り親の〜に〜母も〜

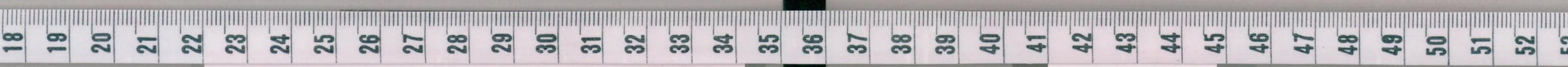


あつゝ六乳渴おせしむりしと二人ともはらむりしめ日く
 けい人のものもさゆくくはらふおの食をさうらしてを
 くり給報らもさうらあつめりりしと
 贈りかろうある給報あれと事たりあつて
 人の用事とこれとあつて菓の細くさうらして
 美白たふともさむりしとせしむり人のさめに
 かとさうして父母とまひりこれいふ人も其志と感
 心さうらしてさうらしむりしと
 甲辰年十一月より父の病危くありし時二人
 もいふ病の危しひして音病し量いふさうらして

く量報らもはらうと事なり父のまゝに堪ぬる
 ことさうら七歳よりさうらむり夜と眠し若せり
 その年此書にすくさうらる裕とわさ七歳より
 人吉麻右衛門もさうらあり質にくと兼み非や
 くりんとさうらにものつこれ時とさうら西月には夜
 の若くもさうらぬりしと親をまひりあつて
 さうらさ島右衛門もその志と感し質とさうら
 して兼みりあつてさうら病とまひりあつて
 貴もあつてさうらさうらぬり煙草とまひり
 さうらさうらものもさうら放しつる帷子草あつて

孝義録卷三十一

三十一

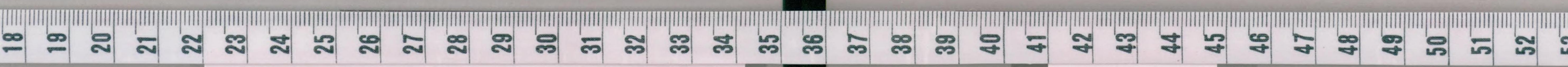


していふてせやめあんとてらるものよき者い
 していふてせやめあんとてらるものよき者い
 病よのこまきひふれとつるよ正月乃比ふつせか
 一の葬の事いふみらく後も大葬せしむに七郎
 八郎もすうら遺骨とあり若く事もあり死そ
 の後ハ母ハ人あはれと程あふらと考へたり母ハ二人乃
 子の貧苦にせむれらと終くは七席いりの小徳業
 もらぬ定むらる事とあてらめて悔とあはる
 ありくうらに日乃いともあはるくあらんてらる
 うあはるく國乃恩と佛乃思とを念ふまはるくは

と消くさうりわら病あり母ハ人をのこらぬと事
 せせんも使あるるそれはぬに悔りて書りてうら
 せあはるくひつひつものかこあつたれとて人ともい初
 くして乞食のまよもあらるるうらとて家
 又と那とてうら今の人を那を那の徳と那の
 子とていふていふていふていふていふていふて
 親よもまきひつひつものかこあつたれとて人ともい初
 ひくその用はゆふていふていふていふていふて
 といつての事あはれと日いひつていふていふて
 七席いりの事あはれと日いひつていふていふて

孝義録

三十一



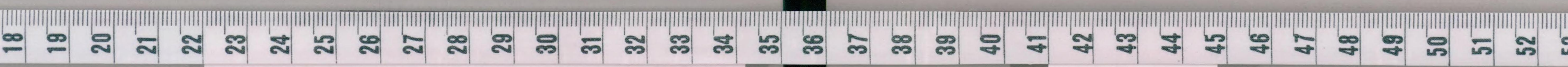
田舎をあらく作らせり父のいふくありて
ぬふく養と残をせりし事ありしに
てのちとれ事りいひぬくさるりしものありし
のみぬくちくぬあひぬありてそれれと
利息をいししに復をもとるりしものい
大明お奉之月領より復もとせりし
なり

孝行者と郎

志と郎の廣徳の膝下十日市町の借金に
父新と郎死しけり比の志と郎ありし
時よりその志と郎ありし事りし
なり

とらぬいしむもえししありて
とらぬもの持こるる店の事りありし
らぬいしむもえししありて
といふものよほりし事りし
事りしなりぬ抱せんものおけりし
らぬいしむもえししありて
母と従弟のものもえししありし
符をぬく事りしありし
らぬいしむもえししありて
しにぬく事りしありし

孝義録卷三十一



孝義録卷三十七

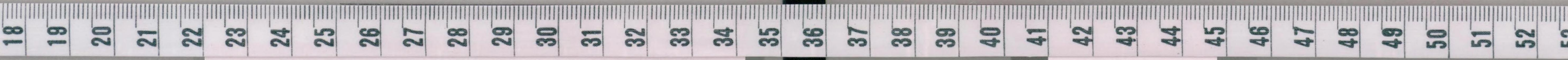
三十二

孝義録卷之三十七

136
50
197

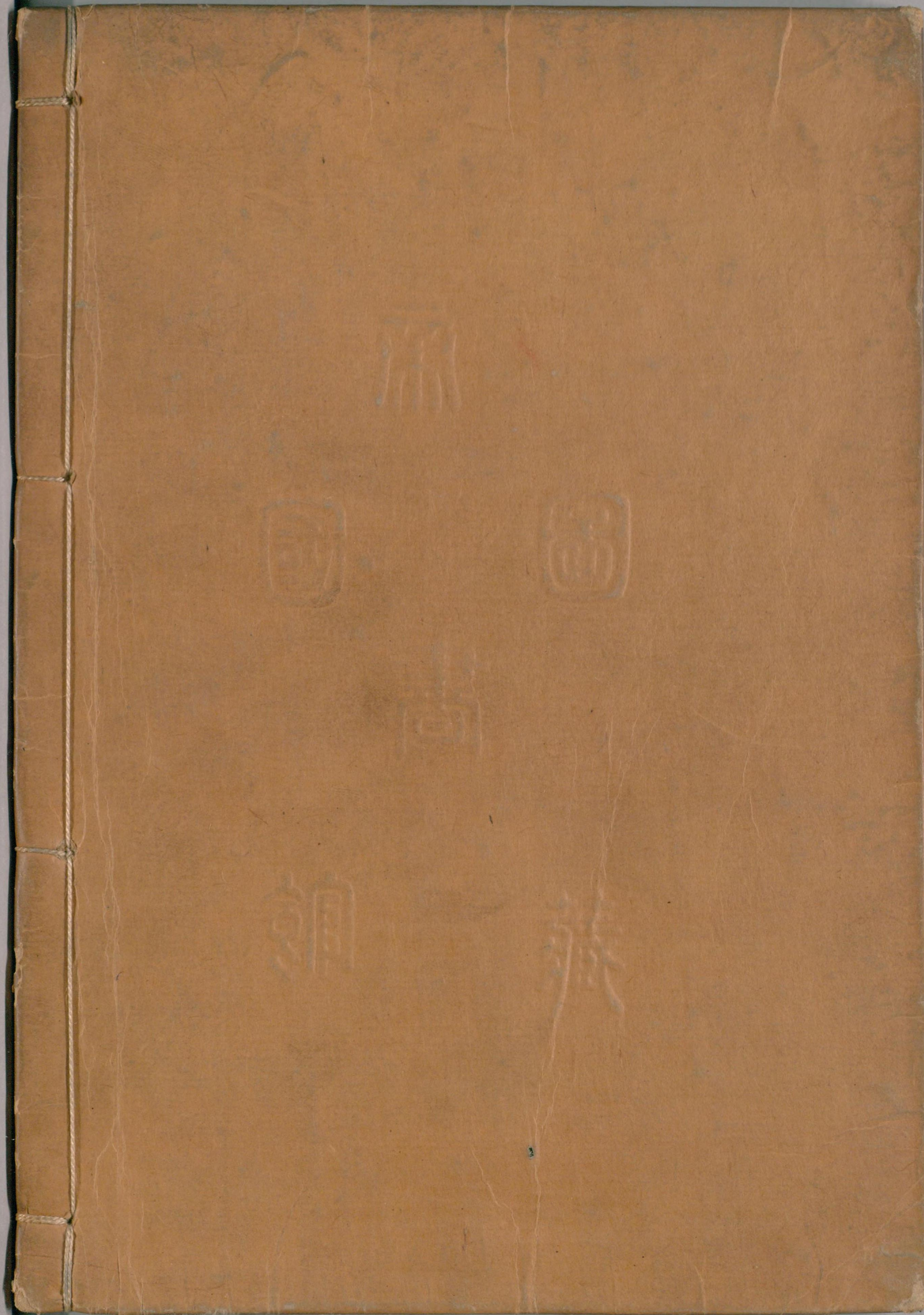
孝義録

孝義録



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用